

2011年4月開設 香港事務所

【 国際都市 香港 】

1997年7月1日、香港は英国から中国に返還された。香港の正式名称は、中華人民共和国香港経済特別区で、中国とは一線をひいた「一国二制度」を保っている。香港は、中国本土へのゲートウェイとして、アジア地域のハブとして、欧米企業のアジア拠点として金融、情報の拠点となっている。

香港の人口は約700万人、面積は東京の約半分の1104km²という小さな都市だが、2010年の香港への外国訪問者数は約3000万人弱、そのうち約1800万人が中国本土からの渡航である。日本への訪問者数が年間約679万人という状況を見ても東京以上に国際都市である。香港で目立つブランドとなれば、中国や他のアジアの国でも注目されることにつながる。

香港の2011年のGDP成長率はさらなる伸びが予想され、実際に牽引しているのは欧米ラグジャリーブランドを買うアジア観光客といわれている。

東京の情報発信力は世界的に評価が高いが、アジアにおける商業的な影響力という意味合いでは香港の果たす役割がかなり大きいと言えるだろう。こういった環境を生かして、中国、アジアにビジネスを広げる第一歩として香港に着目する企業も多い。欧米系の有カアパレル会社の多くは、アジアでの拠点事務所を香港に置いてビジネス展開している。



香港事務所 広瀬所長

【 ロイネ 香港事務所 】

ロイネの事務所は、伊藤忠商事のアジアにおける拠点であるITOCHU TEXTILE PROMINENT (ASIA) オフィス内の一角にある。そこで働く140名ほどのスタッフからは、英語、広東語、北京語、日本語が飛びかっている。グローバルビジネスの拠点として国際経験豊かな人達に囲まれて仕事をしている。

場所は、九龍サイド一番の繁華街 尖沙咀のGATEWEYという商業複合オフィスビルに位置する。事務所の下にあるハーバーシテイショッピングセンターは、昨年比130%と大陸景気を背に、観光とビジネスの拠点として賑わいと情報発信の場となっている。

ロイネ初の海外営業事務所としては、まだ立ち上がったばかりの小さな事務所だが、グローバルビジネスに挑戦していく。ロイネが中国・青島に持つ「編みたて、染色、縫製の一貫工場」の大きな生産基盤を武器に、アメリカの大手アパレルメーカーへのグローバル商品受注生産を展開している。出荷先は、欧米、アジア、南米、アフリカなどの主要都市である。初めてのグローバルビジネスは、次から次へと未経験の難題が降りかかる。それをひとつひとつ乗り越えてグローバルなアパレル製造業を目指して牽引できるよう努めていきたい。